

年間第三十一主日

マルコ 12・28b-34

2018.11.3

高円寺教会 18:30 ミサ

クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

イエスは「神を愛し、隣人を愛しなさい」と言われます。これに類することとして、「敵をも愛しなさい」とか、「7の70倍までもゆるしなさい」とも言われています。しかし権力に物を言わせて言論を封殺したり、市民の上に爆弾を落としたりしている独裁者が自分の隣にやってくるとする。とても愛することはできないし、その方の悪をゆるすどころか文句の一つも言ってやりたいと考えます。そんな状況の中で聖書のこれらの言葉を聴いたときに、どうすればいいのか悩んでしまいます。あるいは家族に暴力を振るう夫が、周りから叱られると、「もうしませんからゆるして」と泣きながらその時は誓います。でも、ほとぼりが冷めたら暴力による支配が再開したりする。そのようなことを繰り返すことをゆるすために7の70倍もゆるしなさいと言われているのではないと考えます。こんなことを続けてしまっただけは家族の誰かが死んでしまうかもしれません。

愛するということを考えたときに、権力者にへつらったり忖度することが愛にはならないことがわかる。あるいは、暴力をふるい続ける人が改心しない以上、ゆるしも和解も成立もしません。「ゆるし」という真珠を豚に投げても、それを踏みにじって噛みついてこられてはたまりません。聖書のことばを一つだけ取り上げて、これが「全てだ」とやってしまうと、生き方が窮屈になってしまいます。

ですから悪に対して屈服することが的に対する愛となるのではなく、厳しいことを言うときにこそ愛を必要とします。権力者に対して命がけで反対する人は、権力者が正気になることを願っていますし、夫から逃げる人も、相手が人間らしくない行為を行わないように逃げていく。愛するということは、自分の人間性を駄目にするだけでも、暴力の奴隷になることでもありません。

「愛する」とは「愛される」こととは違いますから、人から愛され、受け入れられることを目的としません。人から嫌われ、迫害されてもどうやって愛するのかということも問われます。イエスに従う人は「すべての人に愛される」とは聖書に書いてなくて、「すべての人に憎まれる」と書かれています。愛する

ことを生きること、もしかしたら親、兄弟姉妹、友人から嫌われるかもしれませんが、嫌われても人間が生きるために大切なものがあることを示していくということは敵にとって大きな愛となっていきます。

愛する人とは、暴力や支配、圧力、さげすみ、嫌がらせ、悪口からも解放されている人であることが分かります。このように人の自由が愛する力を生み出すものであること証しすることができるよう、ともに祈りましょう。